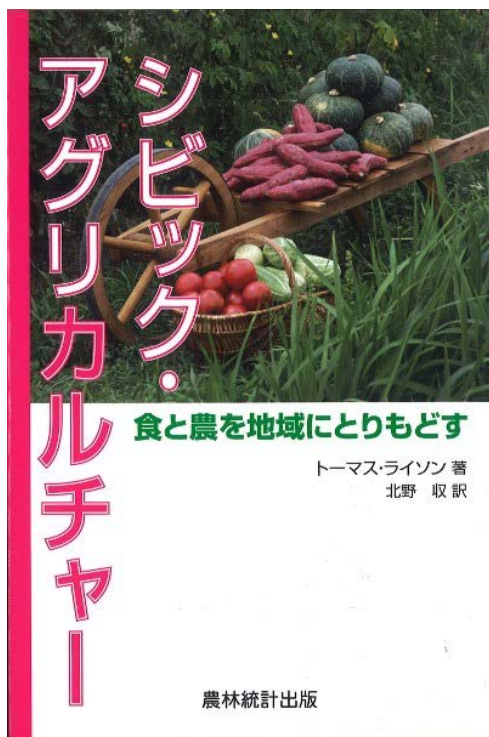


「シビック・アグリカルチャー：食と農の民主主義概念と実践」

セミナー（講演会）ご案内

国連家族農業の10年（2019-2028）や、2018年12月18日国連総会で採択された「小農と農村で働く人びとの権利宣言」など、国際的な食と農のシステムの議論では大きなパラダイム転換が進行中です。「小農の権利宣言」は家族経営など小農の価値と権利を明記し、国連加盟国全体に、小農を評価しその生活水準を保つことやそのための財源確保や投資を促すことが決議されています。日本では、このような国際的動向はほとんど知られておらず、国連総会での採択については、大手マスコミはほぼ黙殺しました。日本において、小農や家族農の居場所はないのでしょうか？

この講演では、「シビック・アグリカルチャー」の著者トーマス・ライソンの教え子である北野収氏をお招きして、食と農のシステムを民主主義的にすることについて、食と農のシステムの政治経済的側面についての知識をほとんど持たない大学生に対してどのようにアプローチするのかについて、学生と教員（研究者）が共に学ぶ時を持ちたいと願っています。講演では、家族経営農家は社会の持続可能性に不可欠な存在である市民的共同体を構成する重要な要素であり、伝統文化やアメニティといった面からだけでなく、民主主義の基底をなす市民社会の定義そのものに農業・農村を位置づけようとする立場（北野 2013）からシビック・アグリカルチャーを解説していただく予定です。講演後、本学経済学部原田太津男教授によるコメントを戴き、参加者の質疑の時を持ちます。



演者：北野収氏

獨協大学外国語学部 教授

専門：政治経済学 食と農の経済学

関連業績：「社会の持続的発展と日本の政策言説」（2013）厳網林・田島英一編『アジアの持続可能な発展に向けて：環境・経済・社会の視点から』慶應義塾大学出版会。

『開発との遭遇：第三世界の発明と解体』（訳書：アルトゥーロ・エスコバル著）（2022）新評論

『人新世の農学原論・開発原論 内発的発展とアグロエコロジー』（西川芳昭との共編著）近刊 農林統計出版

補足：経済学部西川ゼミ（食と農の社会科学）と獨協大学北野ゼミ（国際開発・持続可能な開発・食料経済学）合同の読書会等を検討しており、今回講演に引き続いて北野ゼミ卒論指導に関して、学生を含めた討論も行います。

日時：2022年5月10日 火曜日 13時30分～15時00分

場所 Zoom開催（深草学舎21号館601教室で視聴またはリモート）

リモート視聴の場合は事前申し込みが必要です。

主催：龍谷大学経済学会

経済学部専攻科目「農業・資源経済学」受講生他学生来聴歓迎

問い合わせ・事前申し込み：経済学部 西川芳昭

nishikawa@econ.ryukoku.ac.jp